

## 映画監督 吉村公三郎づくし

山東町柏原出身で、「暖流」「安城家の舞踏会」「夜明け前」「足摺岬」などの監督をし、京マチ子や山本富士子などの女優を育てたことで有名な映画監督吉村公三郎氏にスポットを当て、下記の企画展やシンポジウムを開催します。多くの方のご来場をお待ちしております。

企画展：「吉村公三郎と吉村家の人々」

期間：平成15年11月1日(土)から11月30日(日)まで

場所：山東町立柏原宿歴史館

おもな：愛用のハンティング帽子、ステッキ、紫綬褒章、展示品 映画ポスター、手紙など

関連行事：★吉村公三郎シンポジウム

11月9日(日)午後1時30分から3時30分

山東町立町民交流プラザ(ルッチャラザ)

テーマ 「映画は枠(フレーム)だ」

パネラー 新藤兼人(映画監督)

吉村秀實(公三郎氏長男)

(元NHK解説委員)

コーディネータ 松平定知(NHKアナウンサー)

★映画の集い(シンポジウム終了後～5時頃)

「足摺岬」

### [山東町]

問い合わせ等：柏原宿歴史館(0749-57-8020)

山東町教育委員会(0749-55-8110)



▲演技を指導する吉村公三郎氏(中央)  
川口 浩氏(左)・野添ひとみ氏(右)

### 情報 BOX

◆伊吹町教育委員会では、下記の報告書を刊行しました。

『上平寺城跡遺跡群

推定若宮・浅見屋敷跡発掘調査報告書』(15集)

※小面積ながら、石垣・礎石などが出土しています。

『上平寺城跡遺跡群

駒繫跡・杉木坊墓地発掘調査報告書』(16集)

※近世墓の発掘調査です。

また、京極氏遺跡群を紹介したパンフレット「京極氏城館跡・弥高寺跡」を発行しました。

◎問合せ先

伊吹町教育委員会 0749-58-0105

◆伊吹山文化資料館では、下記の冊子を刊行しました。

『伊吹山文化資料館年報5 平成14年度の活動』

※杉沢遺跡、合わせ口甕棺の発掘調査の経過も紹介しています。

◎問合せ先

伊吹山文化資料館 0749-58-0252

### ◆◆編集後記◆◆

本紙もいよいよあと2号を残すのみに…■驚かれたあなたは、多少なりとも『佐加太』を愛読いただいた方ですね■「やっぱりなぁ～」と残念がられたあなたは、北近江の合併事情に詳しい方■各地で論議が進められていますが、現時点に限り坂田郡四町合併はありません■歴史を共有してきた四町で発行してきた『佐加太』も、変革の時期にきています■寂しい話題はここまでにして、合併で生まれる新地名は結構面白い■お隣の県では郡単位で「山県市」「本巣市」「郡上市」など伝統ある郡名を採用し、県内でも「甲賀市」が生まれます■郡をまたいだり、郡の一部の場合は「瑞穂市」など新しい地名が採用されます■さて2年後の本紙の名前は何でしょう。(の)

### 坂田郡文化財ニュース

### 佐加太 第18号

発行 平成15年10月4日

編集 坂田郡社会教育研究会文化財部会

事務局 〒521-0314 滋賀県坂田郡伊吹町春照37

伊吹町教育委員会生涯学習課

TEL. 0749(58)1121

印刷 立木印刷



佐加太とは、「和名抄」東急本の坂田郡の訓を引用しました。

### 第18号

2003年10月4日

滋賀県坂田郡社会教育研究会  
文化財部会

## これでもか柏原宿

### [山東町]

柏原宿は、中山道60番目の宿場で、名物の“もぐさ”屋が軒を並べ、なかなか賑わった街道筋だったようです。

柏原に往時の宿場の賑わいを。そんな思いが結集しつつある今の柏原の息吹を紹介します。

### ■町並みまちづくり

柏原では、ナショナルトラスト調査や柏原宿歴史館の開館、同館の国登録文化財の登録、“コマーシャルソング”の元祖6代目松浦七兵衛を輩出し、今なお唯一艾を商う松浦家住宅(亀屋左京商店)の町文化財指定、明治時代設立の旧柏原銀行建物の保存などの行政の動きと共に、やいと祭などを通じて町並み保存(自主的な修景など)やまちを元気付けようとする動きが出ています。

そうした中、柏原のまちの良さや特徴を文化財的に知るための基礎となる事業として、昨年度より2ヶ年事業として町並み調査(保存対策調査)を実施しています。調査は、国立明石高専と岐阜女子大学に依頼。本年度は特に国の補助を受けて、昨年に引き継いでての建物調査、成果発表会、報告書刊行などを予定しています。今後は、調査結果を活かして「街なみ環境整備事業」や「伝統的建

造物群保存地区制度」などを活用したいと考えています。

### ■薬草と健康のまちづくり

町並み Onlyではなく、その古き良き町並みを舞台に、柏原名物「伊吹もぐさ」をはじめとした薬草にスポットを当て、大学との連携にて地域資源の再発見・継承に地域住民と共に取り組みました。

事業は、薬草の利用をはじめとした「伊吹養生訓」の掘り起こし、薬草を知るために「ア～チイチ塾」の開校、フォーラムの開催、柏原イメージソングづくりの4つを柱に展開し、地域住民が楽しみながらまちづくりへ参加出来たことと、地域の個性を引き出す絶好の機会となりました。

### ■歴史遺産とまちづくり

本年度は、柏原出身の映画監督 吉村公三郎氏づくしで迫ります。柏原宿歴史館では来る11月1日(土)～30日(日)まで企画展を開催します。また、11月9日(日)吉村公三郎氏ゆかりの人々を松平定知氏のコーディネイドでシンポジウムを開催します。乞ご期待!!(桂田峰男)



町並み調査中間発表会

## 坂田郡の天然記念物⑥

### 【町指定天然記念物】諏訪神社の乳銀杏

ちちいちょう

[伊吹町]

「むかし、武士に仕えていた女性が、戦乱に追われて、お姫さんを連れて板並まで落ちのびてきたと。そして“どうかこの子に乳を恵んでやってお助け願いたい。”というてイチョウの木に願を掛けたんですね。そしたら、イチョウの木から母親の乳のようなものが垂れてきて、そっから乳が出てお姫さんはみごとに育ったと。」（『伊吹町の民話』より）

このイチョウは、上板並の姉川の対岸に祀られている諏訪神社の御神木です。女性が仕えていた武士は、甲斐の国の武田信玄とも勝頼とも伝えられています。勝頼が神職を務めた信州の諏訪神社を勧進していることや、甲斐沼家がお守りされていることなど、甲斐との繋がりを感じます。

根元の周囲約7m、木の高さ約31m、枝の張りは東西・南北ともに約20mもあるこの巨木は、樹齢約300年とも650年とも推定される名木です。昔なしにあるように、この木の幹には大小約22個の乳房状のコブがあります。もっとも長いもので約2m。地面に届きそうな勢いです。その太さは1mもあります。このコブはイチョウにとっては異常なのですが、このコブを削って煎じて飲むとお乳がよく出るということで、お参りする人が絶えず「乳宮さま」とよばれました。

（高橋順之）



## 里山に眠る古墳の調査－定納5号墳－

[近江町]

平成13年度に実施された人塚山古墳の発掘調査は、地域の方々から「古墳公園を整備したいので、その前に古墳の実態を調べてもらえないか。」という相談を持ちかけられたのがきっかけで発掘調査を実施しました。

「湖北地域最後の前方後円墳」と考えられていた同古墳は、調査の結果、古墳時代の遺構ではなく、近世末から近代初頭の築造であることが明らかとなりました。

平成14年度から16年度にかけては、定納5号墳の発掘調査を実施しています。この古墳は、山の尾根部に築かれていますが、近年、山が荒廃して近寄ることもできない状況になりました。現在、近江町には里山で保全活動を展開するグループがあり、古墳のある里山にも目が向けられはじめました。

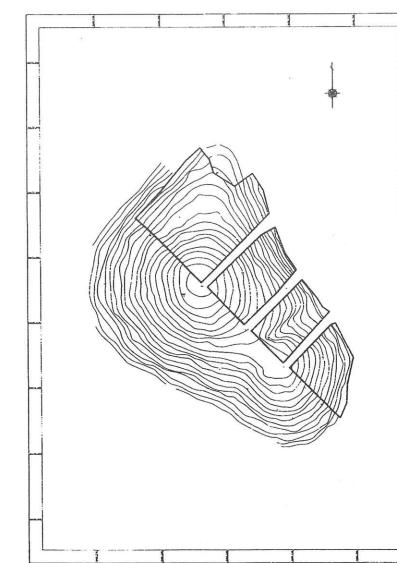
荒廃した山の持ち主から土地を無料提供してもらい、教育委員会の手による確認調査を開始しています。兵庫県西宮市に本学のある大手前大学史学研究所との合同調査で、古墳の測量調査・発掘調査が展開されています。調査前の伐木作業や、発掘調査には、地域のシルバー人材センター（近江町生涯現役センター）の面々が参加しています。毎日、メンバーは替わりますが、より多くの人に埋蔵文化財保護の意識を啓発できる機会

となっています。

調査が進むにつれて、里山保全の活動も活発化しています。枯れた松が無くなり、間伐も進みます。発掘調査の終了後には、伐木が粉碎され、緩衝材となって古墳を覆いつくすことも検討されています。

さて定納5号墳ですが、測量調査では「前方後円墳」と認識されていましたが、発掘を進めるにつれて「方墳」であることも判明しました。今年の調査では、正確な規模や形状、さらには築造年代なども明らかにしていく予定です。

（宮崎幹也）



▲定納5号墳測量図

## 太尾山城跡の発掘始まる

[米原町]

JR米原駅の東側にそり立つ標高254mの太尾山の山頂には戦国時代に山城が築かれていました。この地は江北と江南の境目にあたり、京極氏や浅井氏が六角氏と争奪戦を繰り広げていました。

城跡は北城と南城から構成され、両城跡間は自然地形を残す、いわゆる別城一郭構造で、現在でも地表面に土壘、空堀、曲輪などの遺構が認められます。

さて、この太尾山城跡について今夏より米原町内の中世城館遺跡詳細分布調査に伴い発掘調査を実施することとなりました。今年度はまず南城跡の各曲輪平坦面にトレーナーを設定しました。その結果、まず主郭で2間×2～3間の礎石建物を検出することができました。主郭は12×8mという小規模なもので曲輪というよりもむしろ櫓台のような土壇であったと考えられることから検出された礎石建物は櫓であった可能性が大きいようです。

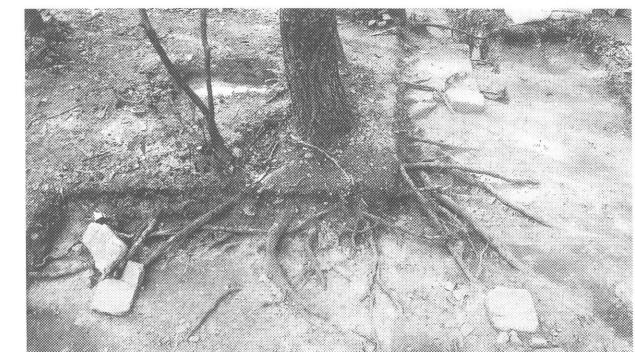
この櫓台の北に一段低く位置する曲輪は東・北辺を土壘で囲み、城跡中最大の面積を有しています。ここから

も南端部で2間×1間以上の礎石建物が検出されており、城内の建物の多くに礎石建物が導入されていたようです。

出土遺物にはカワラケ、瀬戸美濃の天目茶碗、中国産の白磁皿などがあり、検出遺構が16世紀中～後半のものであることが判明しました。

調査は始まったばかりです。今後の成果にご期待ください。

（中井均）



▲太尾山城跡主郭で検出された礎石建物跡

## ほぼ完形の合わせ口甕棺が出土－杉沢遺跡－

[伊吹町]

杉沢遺跡で合わせ口甕棺を調査しました。今回は、これを紹介します。

杉沢は、縄文時代晩期を中心とする遺跡です。調査では、地表面から約85cm下で、2個の甕形土器がぴったりと口を合わせて横位水平に埋設されているのを確認しました。甕形土器の口を合わせてお棺にしているので「合わせ口甕棺」とよばれます。いずれも口の部分に刻み目模様をつけた突帯を巡らせて砲弾形の土器で、底は小さな平底になっています。甕の大きさは口径約34cm、高さ約43cmで、2つ合わせた甕棺の長さは約84cmになります。

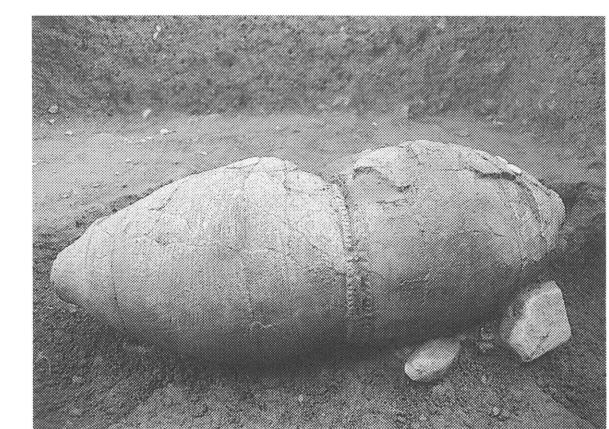
埋葬後早い時期に土砂が流入したようで、棺内には土が詰まっています。ほぼ完形で検出することができました。土器の下で棺を安定させるための支え石を検出しました。土器様式は縄文時代晩期終末の「馬見塚一長原式土器」です。

さらに、約40cm西側でもう1組出土しました。この棺は上半分が潰れており、残り具合はあまり良くありません。近接して出土した2組の甕棺ですが、土器の形や突帯状況から、こちらは縄文晩期中葉終わり頃の「滋賀

里Ⅲb式土器」で、両者の間には、約250年の時間差があります。

合わせ口甕棺は、縄文晩期中頃に北陸や湖西地方に現れ、晩期終わりごろにかけて東海地方に広がった独特の埋葬方法です。今回の調査で出た二つの甕棺は、杉沢が両方の地域を結ぶ接点に位置していることを物語っています。

（高橋順之）



▲甕棺出土状況